

## 凡 例

- 1) 本書は、これから漢方医学を始めようとする人を対象に、漢方の簡単な基礎理論を習得した後、続いて診断と治療の概略を学習し、さらに進んで症状や疾患別の漢方処方を簡記して日常診療の漢方治療を助けることを目的に編纂した。基礎篇では漢方診療の上で最低限必要な基礎理論、診断篇で弁証の具体的な方法、治療篇で漢方治療の処方を解説した。
- 2) 内容は漢方や中医学の臨床に直接関係の深い事柄だけに限定した。
- 3) 漢方医学の原典である内経（『素問』『靈樞』）の理論を基本にして、さらにわが国の古方派、後世方派及び現代中医学の理論を参考にした。
- 4) 治療篇で採り上げた症状や疾患は日常臨床でよく遭遇し、漢方治療で治し得るものに限った。  
記載した処方については巻末に五十音順索引を付した。  
常用処方：その症状や疾患に対して通常用いられる処方を証候別に分類して列記した。各処方の生薬の分量は『実用漢方処方集』（薬業事報社）に準拠した。記載されている処方は原則として、総べて健康保険に薬価収載され漢方エキス製剤として発売されているもので、それ以外は必要に応じて補遺の中に付記した。  
疾患の概念：現代医学と漢方医学の両方の立場から疾患や症状や治療に対する考え方を簡単に記した。  
弁証の要点：その疾患や症状の特徴的な事項を始め、弁証に必要な舌証、脈証、腹証などをわかり易く図示した。ここまでを見開きの2頁内に納め、基本的な事項はこの2頁を見れば大体理解できるように配慮した。  
処方の運用：列記した処方について、その症状や疾患に関連した事項を簡潔に記して、処方選択の参考になるように配慮した。  
補遺：常用処方ではないが著者が有効性を実感した処方を幾つか収録した。  
症例：著者の治験例を収録した。
- 5) 参考にしたたり、引用した文献は最後に一括して記載した。